

はばたき

神戸の動物園グラフ

64
2009
APRIL

K O B E
O J I Z O O

神戸市立王子動物園グラフ

はじめに

園長の一口メモ

～動物たちはどこから？～

神戸市立王子動物園 園長

石川 理

動物園で飼育されている動物たちはどこから来るのかご存知でしょうか。アフリカの大草原や東南アジア、南米の熱帯雨林で捕獲され日本へ連れて来られているのでしょうか。現在日本の動物園で飼育されている大部分の動物は国内で繁殖した動物です。多くの動物園や水族館が加盟している社団法人日本動物園水族館協会の月報に、譲渡可能な動物のリストがあり、これに基づき動物交換、無償譲渡、有償譲渡、ブリーディングローン（BL、繁殖のための貸出）など条件が合えば動物が移動します。移動は繁殖させることが大きな目的であるため、遺伝的に問題がないか事前にチェックし、またBLの場合、生まれた子供をどうするかについても事前に取り決めます。この他、今回の特集にあるナマケモノやカメのように閉園、休館になった動物園などから譲り受ける場合や密輸入、違法な飼育によって没収された動物を税関や警察から引き受ける場合があります。ただし、この場合引き受け後の飼育に責任を持たなければなりませんので、その動物に応じた動物舎の改造や飼料調達、飼育体制など飼育環境を整えることが可能か判断して受け入れを決めます。

しかし、国内だけで繁殖させていると、もともと飼育数の少ない種類の場合、遺伝子プールも小さいため、段々と血が濃くなり遺伝子を健康な状態で保持するのが難しくなってきます。そこで外国から動物を輸入し血液更新を図らなければなりません。現在は野生の動物を輸入するのではなく、それぞれの動物について定められている種別調整者や国際血統登録管理者の紹介、或いは外国の動物園で繁殖したサープラスリスト（余剰動物目録）などを基に交渉し動物を輸入します。事前に相手方動物園へ受け入れ側動物園の概要や飼育場所、飼育実績、治療記録などを提出し、転出させても問題ないか審査会で承認されてから、輸送方法、経費の負担などの条件交渉が始まりますが、鳥インフルエンザや大陸独特の感染症の問題など今は大変難しくなっています。動物園の役割の一つとして種の保存がありますが、貴重な種を生息域外で保全するため、各動物園では健康な遺伝子をいかにして保持していくか日々苦心しています。

表紙	ナマケモノの群れ
P 1	はじめに・目次 ●園長の一口メモ
P 2	トピックス・イベント ●半期分のイベント
P 4	特集1 ●フタコビナマケモノ
P 6	特集2 ●水生のカメ達がたくさんやってきた
P 8	動物園活性化への取り組み ●1班
P 9	動物園活性化への取り組み ●2班（パンダガイド・動物園ニュース）
P11	動物園活性化への取り組み ●3班
P13	動物教室から ZOO っとタイムズ No.30
P14	動物図鑑シリーズ ●モモイロペリカン ●ユキヒョウ
P16	動物の話題 ●ニューフェイス（モモイロペリカン・ダチョウ・シタツンガ・マヌルネコ） ●別れ（コアラ「ラム」・キリン「ナツコ」） ●お帰り（コアラ「ピックス」）
P17	第41回「丑年」賀状版画コンクール ●特別賞作品掲載
P19	特別展より ●干支展「ウシ・牛・丑」
P21	サポーターズコーナー ●サポート企業紹介 ●個人支援者一覧 ●サポーターズデイ報告 ●サポーター募集のお知らせ
P22	賛助広告
P22	裏表紙写真 ●編集後記



表紙動物

フタコビナマケモノ
(貧歯目フタコビナマケモノ科)
Choloepus didactylus

指が2本で、尾は全くないか、わずかな痕跡があるのみである。体長60-64センチメートル。中央・南アメリカの森林地帯に生息する。鋭いかぎ爪を使い木の葉や木の実を食べる。地上には滅多に下りない。

トピックス・イベント



★子ゾウ「オウジ」1歳の誕生会★

10月19日

2007年（平成19年）10月21日に誕生したインドゾウ「オウジ」の1歳の誕生会を開きました。当日は飼育員特製のバースデーケーキをプレゼントし、来園者と一緒に祝いをしました。（現在、「オウジ」は骨折治療のため、公開を中止しています。）

11月3日 ★動物の体重をはかる集い★

人気者のケツメリクガメ「よしはる」とインドゾウ「ズゼ」の体重測定をしました。「よしはる」は41.5kg、「ズゼ」は3,814kgでした。



★動物おりがみでクリスマスツリーを飾るつどい★

12月7日

今回はおり紙といろいろな切り紙細工、クラフトでツリーを飾り付けました。楽しい雰囲気の中で、385名（大人197名、小人188名）の参加者がクリスマスを祝いました。



12月14日 ★干支の引継式★

「ふれあい広場」のモルモットと着ぐるみの牛が登場し、飼育員がメッセージを読みあげ、引継書の受渡しを行いました。



トピックス・イベント



★動物園クリスマス会★

12月23日

サンタクロースや動物たちの着ぐるみと共に、例年のビンゴゲームに加え、今年はハンドベルコンサートも行い、来園者に楽しんでもらいました。

1月21日
～
1月23日

★ジャイアントパンダの人工授精★

メスのジャイアントパンダ「旦旦（タンタン）」に発情の兆候が見られたので、オスの「興興（コウコウ）」との間に、人工授精を行いました。今までは3～5月ごろに行っていましたが、今年は早めの発情でした。



★第21回大人のための動物園講座★

～動物死体を文化のために蘇らせる～

2月22日

今回は東京大学総合研究博物館の遠藤秀紀教授を講師としてお招きし、動物園などで死亡した動物たちを社会の中で活かしていくための研究などについての講義を行いました。



3月1日

★動物写真講座★

毎年、当園で開催している「アマチュア動物写真コンクール」により良い作品を多く応募していただくために、動物写真撮影の手法や注意点などを解説する講座を行いました。





ナマケモノ

閉園した四国の栗林動物園の元園長から、「ナマケモノを預かって欲しい」と、王子動物園に連絡が入ったのが、2008年6月12日。「雄2頭と雌3頭で、飼育施設を確認してから預ける」とのこと。

当園でも以前は、ナマケモノを飼育していましたが、最後の一頭（当園での繁殖個体）が死亡してから、飼育展示施設はあるもののナマケモノの飼育再開には至っていませんでした。それには、ナマケモノ自体が非常に希少な動物であり、国内での調達は

おろか、外国の動物園からの調達も難しいのが要因でした。

しかし今回は、ナマケモノの飼育を再開したい当園と、預かって欲しい栗林動物園元園長の、互いの思惑が合致し、トントン拍子に受け入れの準備が始まりました。しかし、「5頭ものナマケモノをどこに収容展示するか？」が第1の問題でありました。以前のナマケモノ展示施設では、せいぜい2頭が限度ですし、鉄柵や金網での飼育も折角の再開には難色があり……。そこで、爬虫類や夜行性動物を展示収容している「太陽の動物舎」内の温室に、ナマケモノが脱出できない程度の枠を作り、もともとある樹木や樹木間に枝を渡したりで、熱帯樹林を模して展示することに決めました。

ナマケモノの搬入を2008年に行ないたかった



展示場全景

為に工事計画は急を要し、設計から施工までかなりのピッチで行なわれました。そのかいあって、観覧通路からは、若干見上げる感じで、強化ガラス越しに樹木間をゆっくりと移動するナマケモノ達の姿を観覧できる施設が完成しました。完成後に飼育係達で樹間に木の枝を無数に渡し、ナマケモノが自由に移動出来るようにも配慮しました。

2008年11月27日、施設完成を待って、栗林動物園の元園長の視察があり、「素晴らしい」の太鼓判で、



搬入直後のケージに入ったナマケモノ



この施設では巧くナマケモノも観察出来る

早速の導入準備になりました。

2008年も年の暮れの12月17日、飼育展示係長と総括班長をお願いして、香川県の飼育施設までナマケモノのお迎えに行ってもらい、その間に我々担当者は最後の点検整備に努めました。同日の午後3時過ぎには、無事5頭のナマケモノ達が、瀬戸内海を越え、神戸の動物園にやってきました。

ナマケモノ達の中には、当園で繁殖し、栗林動物園に転出していた、オス1頭が里帰りしてきた喜びもありましたが、オス2頭メス3頭の予定が、オス3頭メス2頭だったと言うハプニングもありました。また、当日展示場に放飼する前に、個体識別用のマイクロチップを背中に入れる予定でしたが、あまりにも皮膚が硬く余裕が無かったので、さすがの獣医も断念したというおまけのハプニングもありま



した。しかし、新しい施設に全頭がなじみ、昔からここで生活していたように振舞う姿に、さすがはナマケモノと感心した次第です。

今後は、久しぶりの当園での繁殖を成功させ赤ちゃんナマケモノの姿がご覧頂けるよう、大切に育てて行きたいと思います。

(川上博司)



ぶら下がる事を完全に怠けるナマケモノ？

樹上で寝るナマケモノ



珍亀カラゲールガメ

2008年9月11日に、当園で(社)日本動物園水族館協会の近畿ブロック園館長会議が開催され、近畿地区の動物園・水族館の園長や館長などが一同に集まりました。その席で、姫路市立水族館から、リニューアルのため、一時休園するので、外国産の水生カメ達を引きと取って欲しいと要望があり、当園でも検討することになりました。

当園では、爬虫類飼育施設の「太陽の動物舎」で目玉だったガビアルモドキが死亡し、更に残ったナイルワニは施設の手狭感と繁殖計画の為、伊豆にある熱川バナナワニ園に引き取られ、大水槽が2箇所空き部屋の状態でした。折角の施設で、何も居ない空施設もどうか、と思っていたところでしたので、姫路水族館からの依頼を受け、展示する計画が持ち上がり、その旨を打診しました。

姫路市立水族館はカメ類の飼育展示で有名な水族館でしたから、その希少なカメ達を引きうけるには若干の不安はありましたが、何事も勉強と、引き取り個体や数を調整

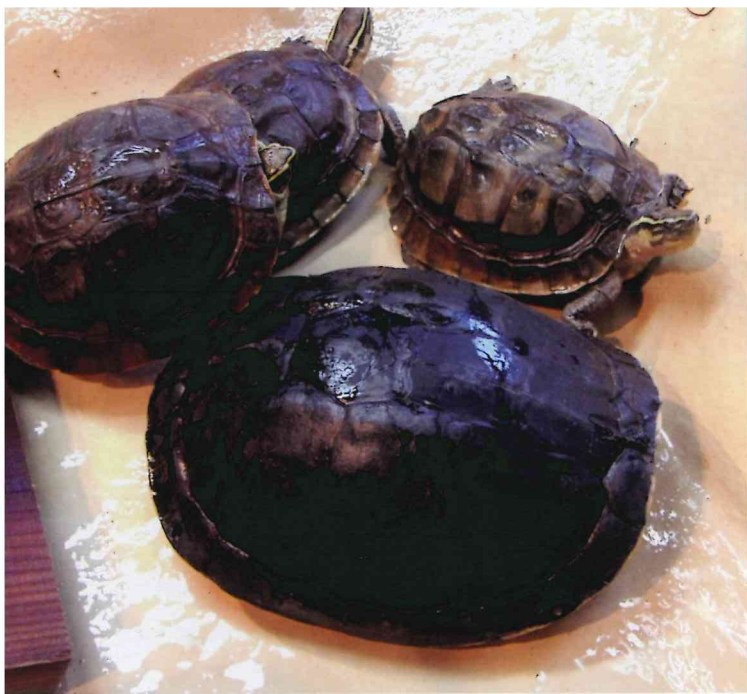


し、11月14日に、飼育展示係長と私で、姫路市立水族館まで引き取りにいきました。この手の動物の移動はお手のものと自信を持っていた私ですが、大きさと数には若干の準備に日数もかかりましたが、水族館職員の手際良い協力で、無事引き取りが完了しました。動物園に帰園後、個体識別用の写真を獣医師が撮影しながら、個体台帳と照らし合わせながら、6箇所ある展示場と繁殖スペースに全頭を収容することができました。移動距離も短く、環境変化に強い種が多かったので、トラブルも無く済んだのも幸いしました。

受け入れ個体の中には、バダゲール属最大級のカラゲールガメや南米の珍亀モンキョコクビガメの軍団、アメリカハコガメの仲間など、大変珍しく希少な亀がたくさん居ました。このバダゲール属と言う聞きなれない属名は、皆さんよくご存知の、溜め池や河川に居る、ニホンイシガメやクサガメと同じ属です。一般にヌマガメと片付けがちですが、ヌマガメは別の種を指しますので、その辺りも観察ポイントかも知れません。

話は少し脱線しましたが、引き取りで少し困ったのは、姫路市立水族館での種名表記は旧種名が多く、現在は別の名前で呼ばれている種の判定に戸惑った点です。例えば、キボシヨコクビガメは、現在、モンキョコクビガメであったり、シロミミガメがホオ





巨大なマレーハコガメ

ジロクロガメであったりでした。

また、完全水生のカラグルーはメスで、これだけの大型個体のメスはなかなかお目にかかれない希少種だったりもします。同様に特大の南米アマゾン川原産の奇亀、マタマタのペアなども見事ですし、太陽の動物舎出口近くのオープンスペースの池に新着した2種のナガクビガメ、ジーベンロックナガクビガメとニューギニアナガクビガメの軍団も、違いが分かるよう解説板でお知らせしています。カメと一口に言っても様々です。

来園者の方から、「なんや、カメばかりやなあ」と出口で言われることもありますが、多種多様な外見と生活形式を見比べてもらえれば、水生カメ類の魅力も再確認できると思います。今後、環境整備やクーリング（一定期間、若干低い温度で管理し繁殖行動を促す方法）などを実施し、産卵・ふ化に挑戦して行きますので、2世の誕生・展示にご期待下さい。

(川上博司)

奇亀マタマタ



ナガクビガメ
2種の展示場



非公開の繁殖場



動物園活性化への取り組み

1 班の場合

1 班の動物園活性化や入園者増への飼育員の取り組みについて説明したいと思います。

始めに1 班はカバ・キリン・ホッキョクグマなどを飼育する北園エリアとコアラ・レッサーパンダ・カワウソを飼育するコアラエリアに分かれます。

我々の取り組みは

①. 「ホッキョクグマのドボンタイム」を毎週火・木・土曜日の13時10分から行っています。飼育員が2階の観覧通路からプール内にエサを投げ込み、ホッキョクグマを飛び込ませ、泳いだりエサを食べる姿を見ることができます。豪快なダイビングはとてすごいです。また、ホッキョクグマの短い尾や、足の裏を観察することができますよ！

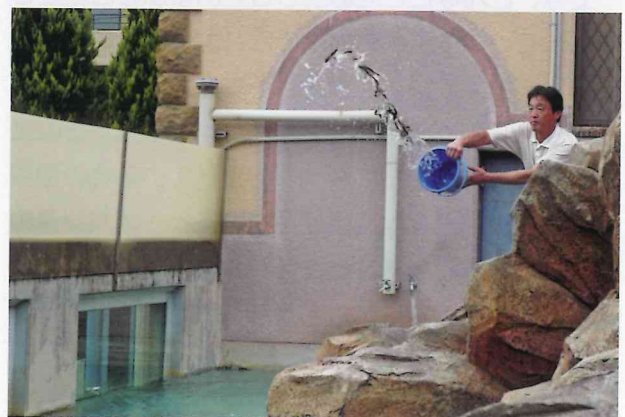
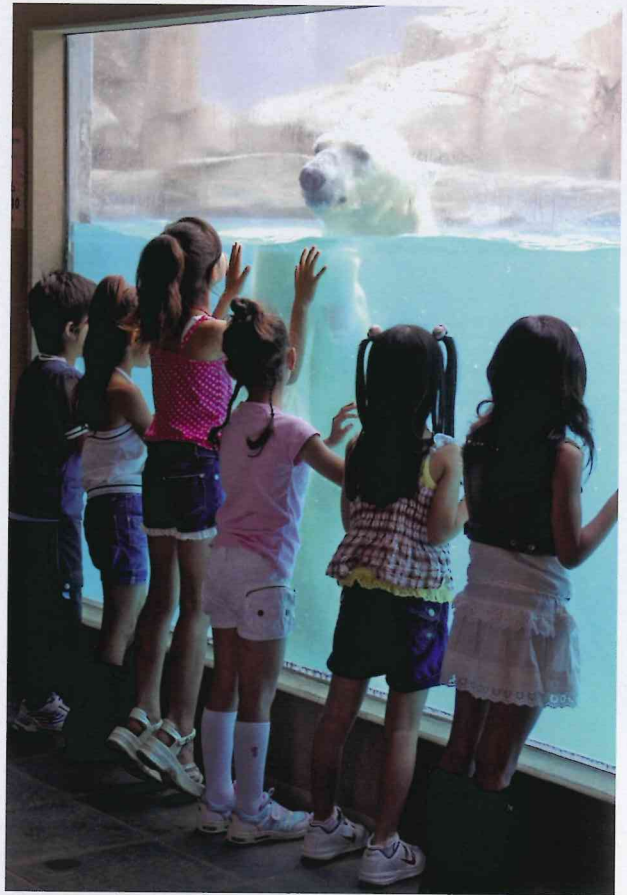
②. キリンにカシの葉を与える体験を不定期ですが、行っています。キリンが間近にやってきて食事をする様子や、キリンの長い舌も見ることができます。ムシャムシャとおいしそうに食べている様子が見どころです。だ液が納豆の糸のように長〜く糸を引くのが見えるよ！

③. コアラのユーカリ体験を毎週日曜日の午後に行っています。コアラが食べ終わったユーカリに直接触れ、アロマテラピーやユーカリオイルの元となるユーカリの特殊な香りを体験してもらいます。種類によって香りがちがうのがわかるかな？

④. 「カワウソのドジョウタイム」を毎日午後に行っています。生きたドジョウをそのままプールに放り込みます。ドジョウを追いかけて食べるカワウソの姿を観察できます。カワウソが上手に手をつかってエサを食べる姿は必見です。

動物が楽しいこと＝人間が楽しいことを選んで行っています。みなさんの記憶に残り、また動物園を訪れたいと思ってもらえるよう、それぞれの取り組みを大切にしています。

(前川聡司)



動物園活性化への取り組み

2班の場合



パンダガイド

王子動物園では2000年から中国との共同研究でオスの「興興」(コウコウ)、メスの「旦旦」(タンタン)の2頭のジャイアントパンダを飼育しています。展示施設のパンダ館では、皆さんにもっとこの2頭のパンダの事を知ってもらおうと、不定期ですが担当の飼育員がパンダの説明などを行っています。

では、どんなことをお話ししているかをご紹介します。まず王子動物園ではパンダに一日に6回のエサを与えていますがそのうち皆さんに見て頂けるのは、開園前と閉園後を除いた4回です。そのエサやりの時に皆さんにパンダの食べている竹の種類や、パンダはどんな所に住んでいるとか、パンダの行動のことなどを出来るだけわかりやすく説明をしています。この時に皆さんから、質問などがあればお答えしたりします。

次に行っているのがパンダの糞の説明です。当た

り前ですが、パンダの糞を遠くで見えることはあっても、目の前で見ることはありません。ですから、この糞の説明の時には、実際にパンダの糞を皆さんの前に持っていき、直接臭いを嗅いでもらったり、持ってもらったりして、糞の重さや大きさなど、普段見ているだけではわからない事を、体験してもらっています。糞は汚いと思う方もいるかもしれませんが、パンダはほとんど竹しか食べていませんので、糞特有のあの臭いもほとんど無く、実際に見てもらった方が、皆さんに、パンダという動物を一層理解してもらえと思います。

今まで説明してきましたこのパンダガイドですが、パンダの体調や、担当者の飼育作業などに合わせて実施するようにしているので、最初にも書きましたが不定期で行っています。それでもなるべく皆さんとお話し出来るように努力していきたいと思っていますので、もしパンダガイドを見かけることがありましたら、皆さんも是非ご参加下さい。

(梅元良次)



動物園ニュース

動物たちの前には、名前（和名）や英名、学名、生息地域や簡単な動物の説明などが書かれた看板があります。この看板のことを「学名札」といいます。しかし、これだけではあまり面白みがないので、2005年の秋からは「動物園ニュース」という看板を新たに貼りだすことにしました。この看板は緑色の枠のあるまっ白い板で、A3サイズの手紙が貼りつけられるようになっていました。だから何度でも簡単に内容を貼りかえて使うことができるのです。みなさんにできるだけ楽しんでもらいながら動物のことをもっと知ってもらいたいので、動物たちの動物園での暮らしぶりや1頭1頭のトピックス、学名札よりもさらにくわしく分かりやすい説明、イベントの予告などさまざまなことを書くようにしています。定期的に内容をかえていますが、古いものを捨ててしまうのももったいないので建物の壁に貼りつけたりして再利用もしていますよ。さあ、今度はなにを書いて楽しんでもらおうかなあ～。



（島田幸宜）

動物園活性化への取り組み

3班の場合

ゾウのトレーニング

王子動物園では、オスの「マック」(16歳)とメスの「ズゼ」(19歳)の2頭のゾウが生活しています。2頭のゾウは、ほとんど毎日、飼育員の号令に従ってトレーニングをしています。飼育員の作業の都合などで行えないときもありますが、たくさんのお客さんが来られている週末などはできるだけ行うようにしています。

オスの「マック」は1995年に王子動物園にやってきました。当時はまだ3歳の子ゾウだったので、飼育員も直接「マック」のいるグラウンドに入って号令をかけたり、体を触ったりすることができたのですが、オスゾウは成長すると気が荒くなり、飼育員がけがをしたりする可能性があるため、今はグラウンドに入らず、室内で飼育員が柵の外から号令をかけたトレーニングをしています。今でも“ダウン”と号令をかけると伏せをしますし、“シット”と号令をかけると座ります。時々「マック」も機嫌が悪いときがあり、号令に従わないときもありま

すが、そのときは飼育員も無理に従わせようとはしません。また、先端にテープを巻いた長い棒を使った「ターゲットトレーニング」ということも行っており、棒の先のテープを巻いた部分をマックのいるオリの柵の間から差し出すと、「マック」がその棒の先に脚を近づけ、柵の間から足を出させます。“ステップ”という号令で柵の間から足を出すのですが、その状態で“ステイ”の号令(じっとしていなさいという意味)をかけ、足先にオリーブ油を塗ったりします。直接、「マック」の体に触れたり



はしませんが、飼育員と「マック」が良い関係を続けていくことには大切なことです。

メスの「ズゼ」は今でもグラウンドに飼育員と一緒にトレーニングをしています。飼育員の号令で飼育員の“ゴー”の号令で前に進んだり、“バック”の号令で後ろに下がったり、“ライト”で右に、“ターン”で左に曲がったり、“ラングーン”の号令で鼻

を上げ、口を開けたりします。「マック」と同

じく“ダウン”も“シット”も

できます。「ズゼ」は直

接、体に触れる

ことがで

きるので、体にけがは無いかな？足の裏は大丈夫かな？とかを見たり、口の中を見たりできます。

ゾウは鼻をとてうまく使います。飼育員がわざと落としたフック（ゾウを直接、トレーニングするときに使っている棒）を鼻で拾って、飼育員に渡してくれたりします。また、お客さんが一番喜んでくれるのは、お客さんに向かって「ズゼ」が鼻を上げ、口を開けたときです。大きく口を開けたときは歯まで見えるかもしれません。決して、サーカスのような派手なことはやっていませんが、ゾウが飼育員の号令に従って動く、賢い動物であることがわかってもらえると思います。

「マック」と「ズゼ」のトレーニングは、飼育員の作業の都合で、多少前後することもあります。だいたい毎日午後2時から「マック」を室内で、その後「ズゼ」をグラウンドで行います。

飼育員の号令に頑張っている2頭のゾウたちを見に、動物園にきてくださいね。

（芦田雅尚）



動物教室から ～動物相談アラカルト～



ゾウの耳の穴は？？？？

「この動物は何ですか？」 ゾウです。ゾウは体が大きい、牙がある、鼻が長い、耳が大きくてウチワみたい、足が太い……。 「ゾウの耳の穴はどこにあるのかな？」と尋ねると、大人は「えっ」というような表情をされます。わたしも「ゾウの耳の穴はどこにあるの？」と聞かれたときのことを思い出します。一瞬びっくりしました。そのときのわたしは、ウチワみたいな耳のことしか思い浮かびませんでした。耳の穴の場所を答えるのに自信がありませんでしたので、子どもと一緒にゾウを見に行きました。ちょうど、耳をパタパタさせていました。耳の後ろには穴がありません。前をよく見ても、穴が分かりませんでした。耳は音を聞くためにあります。後ろになれば前にしかないと、もう一度よく見ました。耳の付け根のところに毛がいっぱい生えているところがありました。ここに耳の穴がありました。毛がいっぱい生えていたのと、耳の付け根にあったので気がつかなかったのです。よく見ると「な～んだ、見かけが違うだけで、構造は人間と同じだ」と思いました。ゾウの耳の動きは聞くだけではありません。車のラジエーターの役目もします。耳を広げて動かし、風を当てて体温を下げるのです。これから暑くなってくると、耳をパタパタさせたり、広げていたりすることが多くなります。この季節は、ゾウの耳の穴がどこにあるか確かめられる楽しみがあります。さらに耳の働きのもうひとつは、広げて大きく見せ、相手を威嚇することです。たいていの動物は耳を動かします。あなたはどうか！わたしたちがふだん耳とっているのは、^{じかい}耳介の部分のことです。^{じかく}耳殻ともいいます。

(池田正宏)

ZOO

っと
タイムズ

No.30

オランウータンの移動作戦

天王寺動物園に潜入しませーす



1



2



3



4

(川上)

モモイロペリカン

ペリカン目ペリカン科

Pelecanus onocrotalus



全長1.6m、体重約10kgもあり、翼を広げると2.5mを超える水鳥の中では大型なものの一つ。羽色は全身白色だが、繁殖期には美しいピンク色になる。翼の先端は黒く、足は肉色。くちばしの長さは45cmもあり、黄色でオスは先端が赤色である。繁殖分布域は広大で、東南ヨーロッパの河川や湖沼、ドナウ川のデルタ地帯、黒海、カスピ海の沿岸部、西南アジア、アフリカの各地や赤道の南などに住んでいる。ヨーロッパとアジアのものは渡りをし、ギリシャ、ペルシャ湾、紅海沿岸はアフリカ大陸各地などで越冬する。ヨーロッパ東南部には4～5月上旬に現れ、10月ごろにはギリシャや紅海、アフリカに渡る。集団性の強い鳥で、普通数百羽で移動するが、数千羽で移動することもある。淡水か塩水かは選ばないが、水深と魚類（エサ）が豊富なところにきわめて敏感である。食欲は旺盛で、1日に約2kgの魚を食べる。体は10kgと重い、骨は空洞になっており、皮下にも空気層があるので、比重は軽い。飛ぶのも水に浮くのも自由であるが、反面、潜ることは苦手で、長いくちばしと首を使って深いところの魚を捕らえる。こうした特徴と集団性の強い

性質のために、興味深い集団漁法をする。まず、多数の集団を作り、1列か2列のアーチ状に並び、翼で水面を激しく叩きながら、岸に向かって魚を追い込んでいき、狭いところに集まった魚を、くちばしに付いているのだ袋を“たも網”のように使い、すくって食べる。時にはペリカン同士が向かい合って挟み撃ちにして、魚をとることある。産卵は1～2個で、抱卵は雄雌が数日ずつ交代で行い、約30～33日でふ化する。ふ化したヒナの目は開いておらず、全長は8cmほどである。10日ほどで黒っぽい綿羽で覆われ、1ヶ月で泳ぐようになり、3ヶ月で飛べるようになる。

《動物園での一口メモ》

王子動物園では昨年の10月15日から飼育しています。体は大きいですが、臆病な水鳥です。寒さに弱い、冬は赤外線ランプで暖かい場所を作っています。エサはアジで、1日に1.6～2kg食べて、食欲は旺盛です。現在は、オス1羽だけですが、春にはメス1羽がくる予定です。

（中岡正利）

ユキヒョウ

食肉目ネコ科

Panthera uncia



ユキヒョウはヒマラヤ山脈やアルタイ山脈などの標高1,800～6,000mの山岳地帯のハイマツなどの丈の低い針葉樹林に生息する。獲物が少ないため、なわばりが広く、ほぼ一週間かけて行動圏内を回る。早朝と夕暮れに活発になる。

夏はアイベックス、マーコール、ヒマラヤタールなどの野生のヤギやヒツジ、マーモット、ナキウサギ、ネズミ類、鳥類を捕食し、冬はイノシシ、シカ、野ウサギを捕食する。狩の方法は獲物に忍び寄り、6～15mの距離から飛びかかる。垂直に6メートルも飛び上がることができる。

体長は120～150cmで、体重25～45kg、尾長90cm。体色は全体的に淡い灰色かクリームがかった灰色で、正中線に黒い筋が入る。下面は白っぽい。

一般に大型ネコは吠えることができるが、ユキヒョウは吠えることができない。ヒョウに近縁だが、頭は短くて鼻の部分が幅広い。このため鼻腔が広くなっていて、冷たい空気を呼吸すると適度な温度と湿度が加わる。

体毛も高地の気候に適応しており、体側では夏に2.5cm、冬になると5cm、腹側は夏で5cm、冬で12cmの長さがある。長い尾も厚い毛に覆われていて岩地を跳びまわるときにバランスを取るのに役立つ。足の裏も毛のクッションで覆われ、接地面積が大きい。これで寒さから足を守り、柔らかな雪でも潜りにくくなる。

普段は単独で行動する。繁殖期は1～5月で、妊娠期間は約100日。4～6月に母親の毛が敷かれた巣穴で体重400g前後の子供を2～3頭産む。1週間ほどで目が開き、2ヶ月ほどで離乳して、初めての冬は母親と過ごす。そして2～3年で大人になる。ユキヒョウは家畜を襲うこともあり、害獣として駆除されたり、毛皮を目当てにした狩猟、漢方薬に骨が使われたりと生息数が減り、野生では6,000～7,000頭といわれている。ワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動物の種の国際取引に関する条約）の附属書Iに該当し取引が規制されている。

《動物園での一口メモ》

王子動物園では、オスの「ティアン」、メス「ミュウ」がいます。エサは馬肉が2～3kg、手羽先が2本、鶏がらを1個与えています。水曜日は絶食日ですのでエサは与えていません。

「ティアン」は「ミュウ」より大きく、毛色が少し茶色っぽく、性格は少し気が小さいです。

また「ミュウ」は小さく、毛色が白っぽくて遊び好きで、「ティアン」によくちょっかいをかけています。昨年から繁殖シーズンには交尾をしています。今だ妊娠には至っていません。2世の誕生を楽しみにしています。

(石川康司)

「動物の話題」

ニューフェイス



ダチョウ (メス2羽)

1月28日来園



モモイロペリカン (オス)

9月25日来園

お帰り

コアラ

「ピックス」(オス、5才)

1月28日、淡路ファームパークより帰園

(2008年6月16日より繁殖のため、貸出されていました)



別れ

コアラ

「ラム」(メス、11才)

11月14日死亡

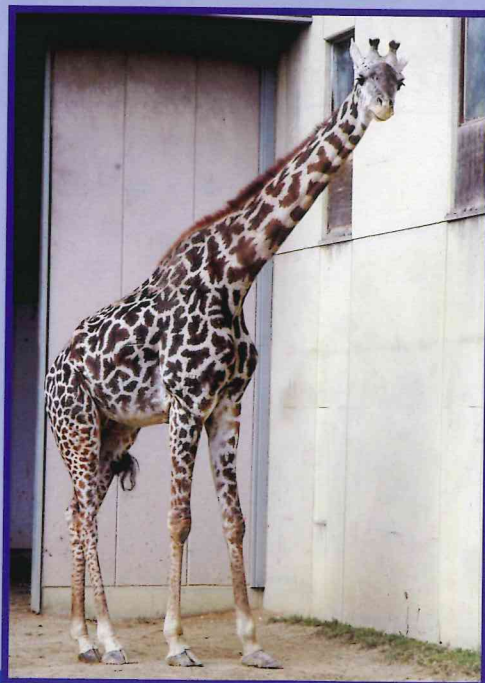


マサイキリン

「ナツコ」

(メス、26才)

12月21日死亡



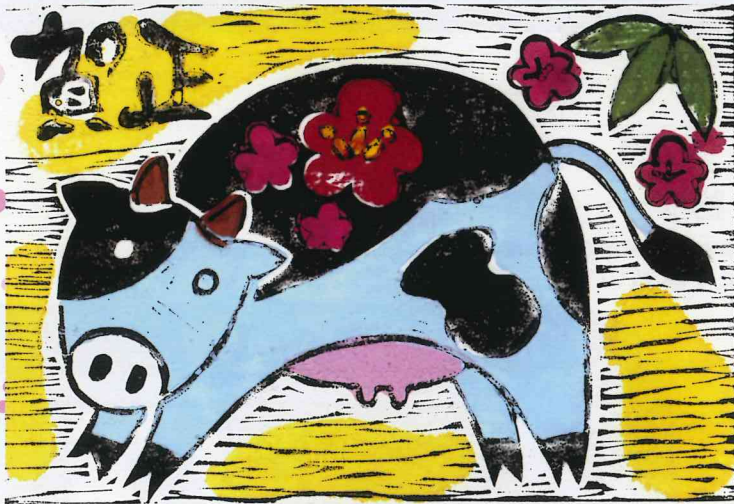
(森本市郎)

第41回「丑年」賀状版面コン

神戸市長賞

三嶋 菟奈

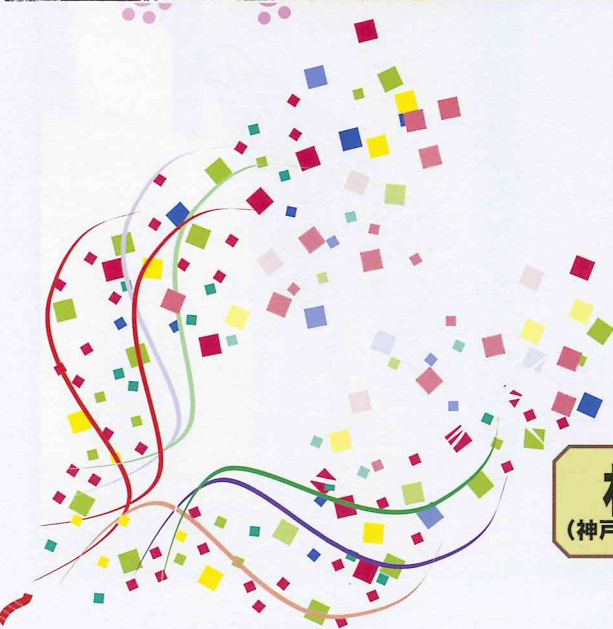
(神戸市北区・箕谷小学校2年)



神戸新聞社賞

谷口 陽香

(兵庫県三木市)



王子
動物園長賞

村上まあり

(神戸市西区・愛徳学園小学校6年)



●金賞・・・ 30 点
●銀賞・・・100 点
応募総数・・・1209 点
審査：版画家 川西 祐三郎



サンテレビ
ジョン賞

影山 友乃

（兵庫県姫路市・中寺小学校 6 年）

富樫 実咲

（神戸市中央区・明照幼稚園）

神戸市
教育委員会賞



神戸市動物
愛護協会賞

永守 智子

（神戸市西区・井吹台中学校 2 年）



神戸市公園
緑化協会賞

笠原 茜

（京都府福知山市・惇明小学校 5 年）

干支展「ウシ・牛・丑」から

開催期間：平成20年12月13日～平成21年2月28日



平成21年の干支は「丑」。
というわけで、ウシのあれこれ
を紹介しました。会場の様子を
ちょっとだけお伝えします。

●「ウシ」ってどんな動物

～なかまわけ（分類）～

ウシは哺乳類のうち偶蹄目に含まれます。指先は蹄になっています。偶蹄目の動物は脚1本ごとに指が2本または4本あります。つまり偶数の蹄をもつなかまで。偶蹄目の中でオス・メス共に生え変わらない角があり、鼻先の毛のない部分（鼻鏡）が広いものをウシ科ウシ亜科といいます。さらにその中で、オスの首やおなかの辺りの皮が一部垂れたようになるグループをウシ属といいます。

そしてウシ属のオーロックスという動物を家畜化したものが私たちの知っている「ウシ」です。

左からウマ、ブタ、ヒツジ、イヌ、ネコの前足の骨（赤字は偶蹄）

角の違いの展示



～家畜化の始まり～

今から8000年ほど前、イラン高原北部でオーロックスが飼いならされ家畜化がはじまりました。野生のオーロックスは、ユーラシアから北アフリカにかけて広く生息していましたが、狩猟で数が減り、1627年にポーランドで最後の1頭が死に絶滅しました。



オーロックスはこんなに大きかった！



地面からの高さ：約2m

鼻先から尾の付け根までの長さ：約3m

体重：約1トン

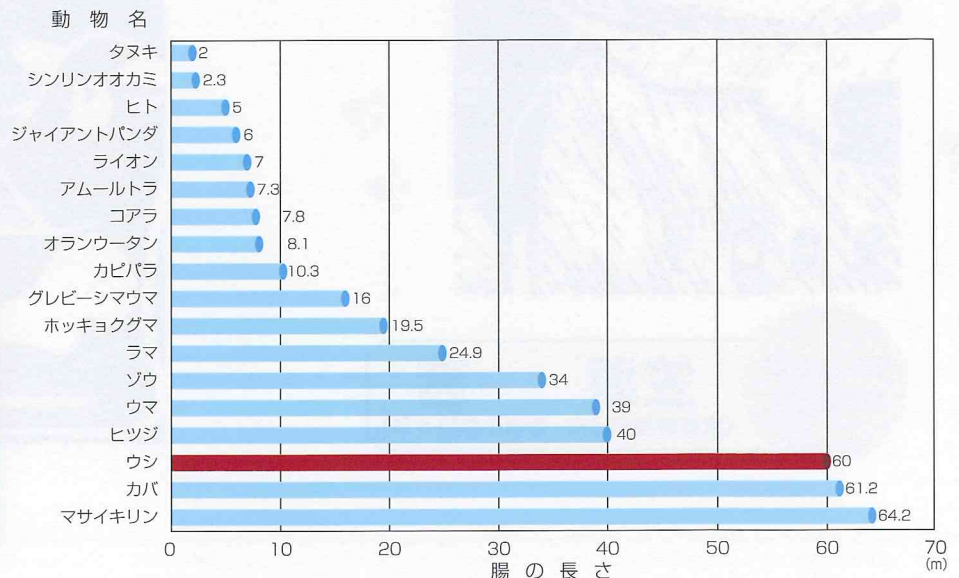
～体の特徴～

ウシには胃が四つ！

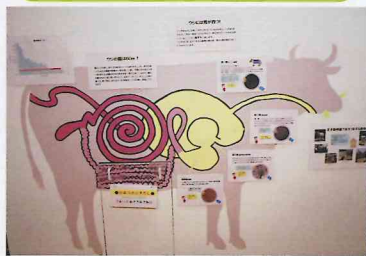
ウシが休んでいる時、口をもぐもぐしているのを見たことはありませんか。これは一度食べたものをもう一度吐きもどし、かみななおしているところで、「反すう」といいます。ウシをはじめ、反すうをする動物の胃は四つに別れています。

●ウシの腸は60m！

腸はとても長く、成牛では約60メートルあります。しかし、長さはあっても太さは盲腸や結腸の一部を除いて細く、容積はそれほど大きくありません。お腹の中の大部分を第一胃が占めているので、腸はお腹の右の上部に押しやられている形です。この長い腸では、胃で消化しきれなかった食物をじっくり分解し、吸収していきます。



4つの胃と腸の解説パネル



こんなところに引き出しが・・・？



開けてみると・・・



60mの腸（職員手作り）が出てきた！

～ウシの歯「どんな形？どんなしくみ？」～

上あごには切歯・犬歯がありません。そのかわり歯床板という、かたくなっている部分があります。この部分と下あごの歯を使って草を切ります。ちょうど歯床板は「まな板」、下あごの歯は「ほう丁」の役割をしています。

切 歯

- ★上あごにはない。
- ★下あごには門歯6本ある。

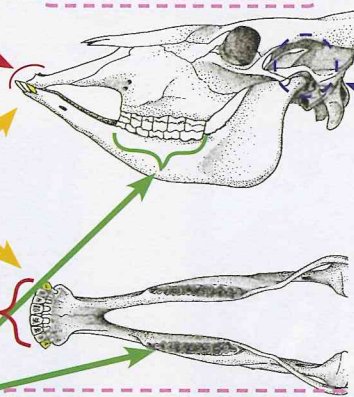
犬 歯

- ★上あごにはない。
- ★下あごに2本あり、切歯と同じような形をしている。

臼 歯

- ★上下のあごに左右6本ずつある。

〔ウシの頭骨（横から見たところ）〕



〔ウシの下あごの骨（上から見たところ）〕

図引用：遠藤秀紀「ウシの動物学」東京大学出版

ウシ科とウマ科の歯の違いの展示

あごの間接は、下あごが前後、左右、上下といろいろな方向に動くしくみになっています。

臼歯のかみ合わせる部分には三日月形のひだがあります。草は下あごを動かすと、このひだによってごりごりとしりつぶされていきます。ちょうど臼と同じような役割をしています。

●牛と人間

～植物だけを食べてたくさん牛乳をだせるわけ～

牛の第1胃にはたくさんの微生物がいて、牛が食べた植物の繊維やデンプンを栄養（脂肪酸類・ビタミンB類）に変えます。また微生物は、植物のタンパク質を分解し栄養価を高めて自分の体に取り入れます。そして微生物も、分解された植物と一緒に第4胃に運ばれ消化・吸収されます。こうして、牛は微生物から栄養をもらうばかりか、微生物自体も栄養にします。だから消化の悪い植物だけを食べていても、効率よく牛乳を作り出すことができるのです。

～食肉～「焼き肉で学ぼう！」のコーナーから

おいしそうに焼けたお肉！と思ったら、実は・・・。

うらがえせば・・・。



肉の部位と名称の解説でした。

肉や牛乳だけでなく、ことわざや民芸品など人間の暮らしと深く関わっているんだよー。



ウシの切手コーナー

その他、民芸品コーナーなども好評でした。

（穴戸正芳）

サポート企業ご紹介

動物サポーター個人支援者一覧



支援する動物：ライオン

株式会社エアシス

神戸市西区前開南町2丁目 14-9

- ・ 寶崎 匡恵
- ・ 後藤 眞
- ・ 山ちゃん
- ・ 手嶋 孝之
- ・ 山下 真弘
- ・ 宮本 真鈴
- ・ 寶崎 文音
- ・ 野崎 朋子
- ・ 石崎 裕敏
- ・ 馬場 爽笑
- ・ 小西 正剛
- ・ 銅直 優子
- ・ 青山 純子
- ・ 韓 梨花
- ・ 旭 椋太
- ・ 赤本 公孝
- ・ 岩本 遼

(※平成 21 年 3 月 15 日現在。前号の発行以降に新規登録され、掲載希望のあった方のみ掲載)

サポーターズデイ開催

今年で3回目を迎える「サポーターズデイ」を2月15日(日)に開催しました。サポーターの方からの日ごろのご支援に感謝の気持ちをこめて、当日は110名の方をご招待し、動物科学資料館動物園ホールで、インドゾウ「諏訪子」の死亡やジャイアントパンダの誕生・死亡など大きな出来事のあった王子動物園のこの1年間をお話したあと、4つの班に分かれてバックヤードなどを飼育員と共に見学していただきました。キリンやアシカにエサやりをしたり、普段は入れないバックヤードで飼育員のガイドを聞きながら、動物たちを間近で観察していただきました。また、改修中のシマウマ舎の工事現場の見学もしていただきました。



動物サポーター大募集

～市民に親しまれ、市民とともに活性化することを目指して～

王子動物園では、動物サポーター制度を実施しています。この制度は、動物園を支援していただける企業・団体等（法人サポーター）や個人（個人サポーター）からの寄付（年単位）を動物たちのエサ代や動物舎の整備などの運営経費に充てるというもので、動物園をより身近に感じていただき、市民に支えられながら動物園の活性化を進めていくことを目的としています。

法人サポーター

対象は法人・企業・団体で、ご寄付いただいた法人等については、園内の動物舎前等にその名称を記載したプレート（デザイン等は原則共通）を設置します。また、それぞれの法人等は、王子動物園を支援している旨を記したロゴ入り支援マークを使用することができます。

個人サポーター

ご寄付いただいた個人の方については、お名前を園内の支援者一覧に掲示するとともに、年間パスポートや機関誌、サポーターシールなどを進呈します。

対象	大人	中学生以下
一口 (年額)	10,000 円	1,000 円

(山口良一・重田栄昭)



株式会社 ロッテアイス

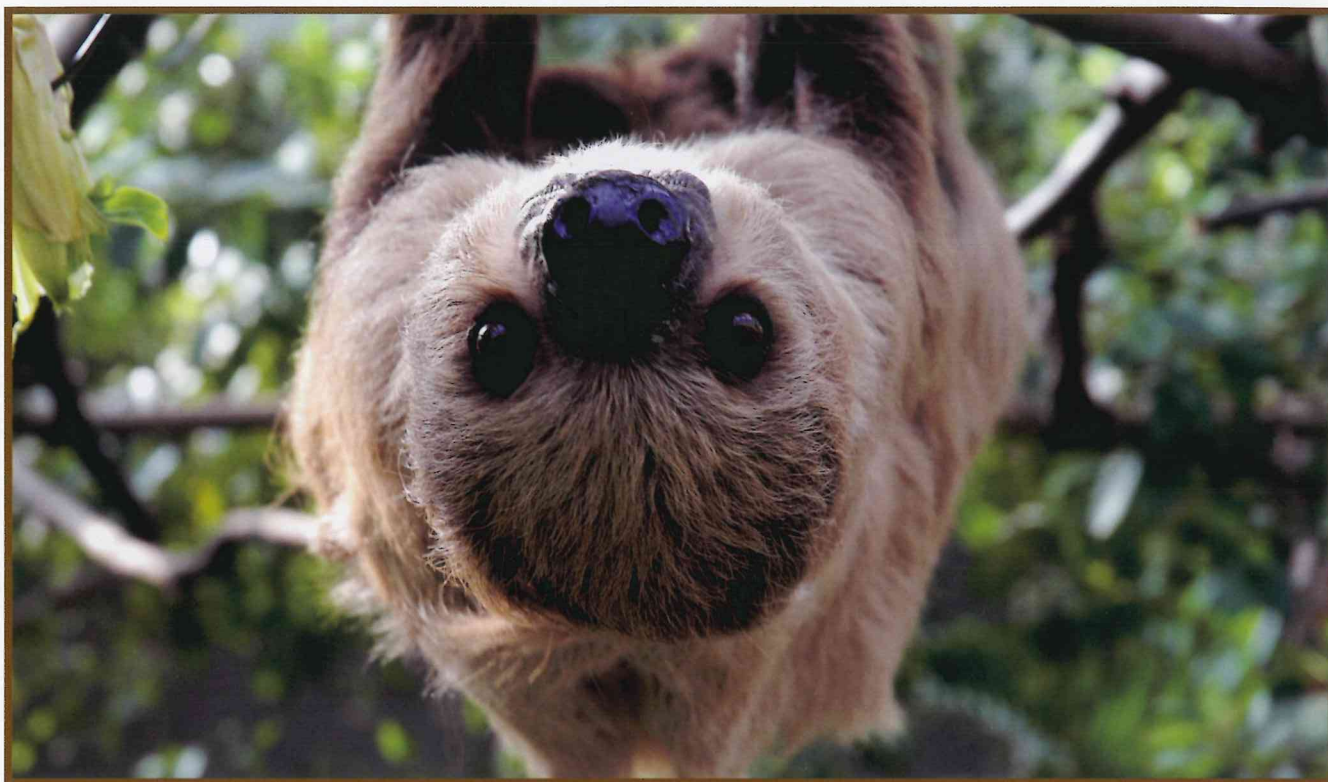


伊藤園
自然が好きです。

おいお茶
国産茶葉100%

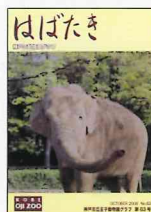


空容器の散乱防止・リサイクルにご協力ください。



ナマケモノの顔

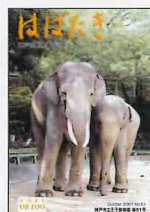
～バックナンバー・売店で販売中～



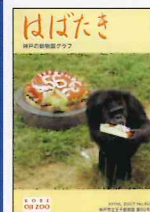
■ 63号
◎特集「諏訪子」



■ 62号
◎特集
「北園リニューアルオープン」「インドゾウ「オウジ」の誕生」
◎担当動物個体の紹介



■ 61号
◎特集
「ルリコンゴウインコの繁殖」
◎動物たちの出産の準備
「カバ」「ジャイアントパンダ」「インドホシガメ」「インドゾウ」



■ 60号
◎特集
「ジャイアントパンダの共同繁殖研究」
◎動物たちの高齢化対策
「鳥類」「ゾウ」「コアラ」「チンパンジー」「レッサーパンダ」



■ 59号
◎特集1
「コウノトリ飼育史」
◎特集2
「動物園の調査・研究」
◎繁殖への取り組み
「ジャイアントパンダ」「インドゾウ」「ペンギン」「コアラ」「サル類」「カンガルー」



■ 58号
◎特集「フラミンゴの繁殖」
◎休園日の動物園
◎王子動物園活性化ワークショップについて～魅力ある動物園をめざして～



■ 57号
◎特集1
「モモちゃん永遠に」
◎特集2
「外来生物って何？」
◎ねむる
「サル類」「鳥類」「ゾウ・オオアリクイ類」「ナマケモノ類」「草食動物類」



■ 56号
◎「モモ」
インドゾウ・メス1歳の近況
◎動物の搬入・搬出
「ゾウ類」「フラミンゴ類」「コアラ類」「キンシコウ類」「キリン類」



■ 55号
◎特集1
「日本初アジアゾウの繁殖」
◎特集2
「ゴリラの展示再開」
◎動物たちの暑さ対策



■ 54号
◎動物たちへのエンリッチメント「動物のあそび」～ストレスの緩和～
「インコ類」「ゾウ類」「オオカミ類」「カピバラ類」「サイ類」
◎動物ハプニング特集
好プレー? 珍プレー? 特集



■ 53号
◎動物たちへのエンリッチメント～飼育係によるエサの工夫～「ジャイアントパンダ類」「オオアリクイ類」「リス類」「サル類」「キリン類」
◎長寿功労動物たち
チンパンジー「ジョニー」
インドゾウ「諏訪子」
コウノトリ「コウちゃん」
レッサーパンダ「遊遊」



■ 52号
◎動物たちへのエンリッチメント～快適な施設～
「ゴリラ類」「カバ類」「コアラ類」「ジャイアントパンダ類」「インドゾウ類」
◎カバの茶目子追悼特集
「王子動物園とともに45年」

編集後記

たくさんの新顔動物が仲間入りしました。じっとしているナマケモノも5頭いると目立ちます。カメもにぎやかになりました。オスだけメスだけとなっていたダチョウやシタツガにもパートナーが加わりました。動物園にはキューレーターという動物の出入りなどを担当する職員がいて、自然保護にかなった収養に努めています。その2月までの新着を本号の特集やニューフェイスで紹介しました。リニューアルするシマウマ舎や若返るレッサーパンダと続きますが今回は、予告だけにしておき、次号のお楽しみにさせていただきます。

(副園長 奥乃弘一郎)

ふれあい広場「ふれあいタイム」 ▶ 毎日3回

インドゾウのトレーニング ▶ 毎日午後2時ごろ

ホッキョクグマのドボンタイム ▶ 火・木・土曜 午後1時10分ごろ

動物教室 ▶ 日曜・祝日午後1時15分～3時

ペンギンガイド ▶ 日曜・祝日午後3時30分ごろ

ホームページ ▶ <http://www.ojizoo.jp>

テレホンサービス ▶ Tel.(078)881-8102

休園日：毎週水曜日(祝日の場合は開園)、12/29・30・31・1/1